

笠間市：地域資源を活用した地域（笠間焼エリア）の脱炭素化による笠間焼産業の振興

～脱炭素で伝統的工芸品を未来へとつなげる～

脱炭素先行地域の対象：ギャラリーロードエリア、笠間学校給食センターエリア、西池エリア、東池エリア

主なエネルギー需要家：戸建住宅(777戸)、民間施設(145施設)、公共施設(8施設)

共同提案者：笠間焼協同組合、(株)常陽銀行、常陽グリーンエナジー(株)、東京電力パワーグリッド(株)、TRENDE(株)、関東道路(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、ゼロワットパワー(株)、三井住友建設(株)

取組の全体像

伝統的工芸品「笠間焼」産業の持続可能性の向上を目指し、ESG分析をはじめ、原料調達・後継者育成・販売モデルの確立といった製造から販売までの取組を一気通貫で支援する仕組みを市が主体となって構築。例えば、陶芸家を育成する修行モデル工房のZEB化や空家を工房へ再エネ・省エネリフォームする等し、作陶コストの削減・作陶環境の整備を通じて担い手の育成・確保を行う。また、人気作陶家やデザイナー、地域資源（栗等）との連携や発信方法の工夫を行う等、戦略的な販売戦略を確立し、伝統的工芸品の持続可能性に貢献するモデルの構築を目指す。さらに、処理が課題である栗剪定枝を燃料としたバイオマスボイラを導入するとともに、副産物の灰を釉薬として活用し、環境配慮を強みにした笠間焼の高付加価値化と主要産業である栗農家の処理負担軽減の同時実現を図る。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- 笠間焼観光の中心拠点である笠間芸術の森公園に、ソーラーカーポート(約750kW)を導入
- 維持管理に苦慮する農業用ため池の2か所に管理負担軽減にも資するフロート式太陽光発電設備(約2,300kW)を整備
- 市、笠間焼協同組合、地域金融機関等の出資により、地域エネルギー会社を設立し、再エネ供給と笠間焼への支援等の担い手となり、脱炭素と地域課題解決の同時実現に貢献
- 安価な再エネメニューの提供と併せて契約切替者にインセンティブを付与し、住宅への再エネ導入(150件、約1,000kW)と再エネ切替を推進



栗灰の釉薬を活用した笠間焼

2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- 持続可能性の向上を目指し、ESG分析を実施する等、製造から販売までを一気通貫で支援するスキームを市が主体となって構築
- 窯元への再エネ・省エネ設備導入、修行モデル工房のZEB化や空家を工房へ再エネ・省エネリフォームすることで、笠間焼産業の脱炭素化を推進
- 給食センターに栗剪定枝を燃料とするバイオマスボイラを導入し、副産物の灰を釉薬に活用

3. 取組により期待される主な効果

- 市が主体となって笠間焼協同組合等と連携し、製造から販売までを一気通貫で支援する仕組みを構築することで、笠間焼産業、さらには国内の伝統的工芸品産業の持続可能性の向上に寄与
- 栗剪定枝の活用により、不適切な放置や野焼きによる煙害、処理負担といった栗農家や周辺環境に対する複数課題を同時解決
- 安価な再エネメニューの提供と併せて、再エネ切替等に対してモンブランの食事券等の地域資源を活用したインセンティブ付与を実施し、地域理解、合意形成の促進と地域産業への貢献を同時実現
- 地域に親しまれる笠間焼の取組を、日常だけでなく、多くの人が訪れる「陶炎祭」を含めた様々な場面で戦略的に発信することで、市民・消費者のサステナブル・脱炭素の取組に対するムーブメントを醸成

4. 主な取組のスケジュール

